

令和6年度 学校経営計画・学校評価		□4月4日提出	□10月3日提出	☑3月14日提出
高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備	
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針)		【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針)	
	○ 高校生活の目的や将来に向けての自己の夢や目標を持っている生徒。 ○ 自主的かつ意欲的に学習に励み、どんな活動に対しても主体的に取り組める生徒。 ○ 部活動、生徒会活動、ボランティア活動、地域貢献活動等にも熱心に取り組める生徒。 ○ 基本的な生活習慣が身に付いている生徒。 ○ 互いに認め合う豊かな心と周囲の人々への感謝の気持ちを持ち、地域に貢献できる生徒。		○地域の魅力ある資源を活用した、特色ある教育課程を編成し、一人ひとりにきめ細かい指導と手厚い支援を行いあらゆる進路に対応します。 ・1年 基礎・基本をしっかりと学び直します。 ・2年 興味・関心を広げ、進路・適性を見つけます。 ・3年 選択科目で、進路実現をめざします。 ○習熟度別授業や遠隔授業で4年制大学や公務員を目指します。 ○総合的な探究の時間では小・中学校と連携し西土佐地域の特産品の商品化や自然について探究学習を行います。	
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力)			
	○ 学ぶ意欲と挑戦する意識を育み、自主的に考え判断できる力を育成します。 ○ 学校行事、ボランティア活動、部活動等を活発化させ自己有用感を育成します。 ○ 探究活動を通して、地域の課題に取り組み、自らが主体となって、地域や社会の未来をひらく力を育成します。 ○ 保小中、地域と連携し、地域の未来を担う人材を育成します。			

学校番号	42	中村高等学校西土佐分校		課程	全
学校関係者評価					
【学力の向上】	評価	【	A	】	
5教科の教員が中心となった「学び直し、振り返り」等の学習活動の充実や学習支援員による放課後の補習が、学力の向上及び基礎学力の定着につながった。各種検定試験に挑戦し、合格することで「学び」のモチベーションの向上につながり、学習意欲も高まってきた。また、進学や就職の個別指導により、目標としていた進路実現につながった。					
【社会性の育成】	評価	【	A	】	
地域と連携・協働した各種学校行事や探究活動等、様々な活動を活発に行うことができ、郷土愛や社会性の育成を図ることができた。多様な生徒が在籍しているため、今後も地域とのかわわりを重要視しながらできる限りの生徒の活躍の場を確保し、地域課題を分析したり解決策を考えたりする力を身につけさせ、生徒が主体となる深い学びにつながる意欲的な活動としたい。また、社会に通用するコミュニケーション能力や元気な挨拶のできる生徒を育成したい。					
【チーム学校】	評価	【	B	】	
ホーム主任や支援員を中心にチーム学校として全教職員でサポートし、進級、卒業、進路実現につなげたことは大きな成果である。また、各種学校行事等においても、生徒と一体となりチーム西土佐(学校)として取り組むことで成果を収めることができた。					

		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】		
重点項目	学力の向上	★ 確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★ 将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	○基礎力診断テスト等におけるGTZのD3層の割合を1年1回目の半分にする ○C層以上の生徒の増加(基礎力診断テスト) R5年度入学:1年1回目12.5%(1名)→2年2回目37.5%3名にする ○授業外学習時間の増加 1年次、2年次とも60分を目指す ○将来のための勉強をしている生徒の増加(県オリジナルアンケート) 1年50%以上、2年70%以上、3年100%以上 ○タブレット端末を学習に活用している(スマートフォンを含む)80%以上(県オリジナルアンケート)	・授業改善 授業のめあてを明確に提示できているか 生徒が自ら学習を振り返る場面を設定する 生徒による授業アンケートと振り返りの実施 ICTを活用した授業づくり ・定着に向けた小テストの改善 ・生徒に思考・判断・表現させる機会の確保 ・自主学習ノートの取組 ・「学び方」や「自分にふさわしい学習方法」の指導 ・教科別面談 ・進路を意識させた「学び」のモチベーションアップ ・学習支援員の活用と充実 ・各種検定試験に積極的に挑戦 ・補習や個別支援等	B	・One-weekトライアル、すららドリルの活用、学び直しの学習活動の充実が学力向上と基礎学力の定着につながっている。 ・学習支援員を活用した放課後学習、各担当教員の補習による手厚い指導や支援が、多くの生徒の学力に成果が現れている。 ・県オリジナルアンケートの結果も各設問に対して肯定的な意見が多い結果となっている。 ・課題としてはD3層の減少、上位層を伸ばす、授業外の学習時間を増やすことである。	・各種検定試験を受検する生徒は、放課後、補習等に取り組ませることで、学習意欲の向上につながる。 ・各種検定試験に挑戦させることや放課後の学習支援員の活用(補習)により、主体的に学習に取り組む姿勢や態度を養う。 ・家庭学習の習慣を身につけさせる(課題の作成等)(スマホ使用時間の制限の実施)。 ・毎日の課題や週末課題の作成および確認。	A	・授業外学習時間には課題は残るが、One-weekトライアル、すらら学習ドリルの活用、学び直しの学習活動の充実が学力向上と基礎学力の定着につながった。 ・D3層の割合 R6入学生 1年 1回目 50ポイント(2人) ⇒ 1年 2回目 25ポイント減(1人減) R5入学生 1年 1回目 75ポイント(6人) ⇒ 2年 2回目 14.3ポイント減(5人減) ・C層以上の割合 R6入学生 1年 1回目 C2層25ポイント(1人) ⇒ 1年 2回目 B1層25ポイント増(1人増) R5入学生 1年 1回目 C1層12.5ポイント(1人) ⇒ 2年 2回目 C2層14.3ポイント(1人増)、B2層14.3ポイント(1人増)	・個別指導の徹底 ・基礎学力の定着や学力向上 ・「学び」のモチベーション向上 ・家庭学習の定着
	社会性の育成	★ 豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★ 多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	県オリジナルアンケート ・「相手の気持ちを考えながら、自分の考えや気持ちを分かりやすく相手に伝えることができる」 70%以上 ・「物事に取り組む際には、目標を立て、その達成のために努力できる」 70%以上 ・「物事が計画通りに進まないとき、どうすればよいのかを考え、乗り越えようとしている」 70%以上	・SC、養護教諭による仲間づくり授業等の人間関係づくりの機会の確保 ・地域協働学習(地域課題解決学習)および地域貢献行事 ・ボランティア活動 ・学校行事(体育祭、文化祭等) ・保育園、小中学校、福祉施設等との連携	A	・ボランティア活動・地域協働学習・探究活動、地域みらい留学による生徒のオンラインによる学校説明等、精力的な活動ができ始め、社会性の育成につなげることができた。 ・県オリジナルアンケート結果も肯定的な意見が多くなっている。	・学年が進行することにより、社会性は身に付いていると感じている。今後も継続して地域の人々との関わる機会を設ける。 ・地域行事(地域貢献)やボランティア活動に積極的に参加させる。 ・学校生活を送る中で必要な人間関係やコミュニケーション、問題解決などのスキルを身につけることで社会性の育成につなげる。(SST)	A	・総合的な探究の時間や地域貢献活動により、地域の魅力や資源について考え、郷土への愛着を育て地域課題を克服して持続可能な地域づくりを考える学習ができた。 ○県オリジナルアンケート結果より ・「物事に、目標を立て、努力できる」 70%以上⇒1年75.0%、2年85.7%、3年85.7% ・「物事が計画通りに進まないとき、どうすればよいのかを考え、乗り越えようとする」 70%以上⇒1年75.0%、2年100%、3年100%	・地域と連携した分校の特色ある活動 ・生徒の自主性・主体性・社会性の育成
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	・県オリジナルアンケート 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答60%以上 ・地域・関係機関との連携回数5回以上など	・四万十川を活用した探究活動 ・西土佐地域特産品の探究活動 ・秋祭りの神輿担ぎ ・建設業祭り(西土佐建設協会) ・農業体験(農業公社)	B	全校生徒が地域と連携・協働した活動をうまく進めており、2学期がメインとなるものも多いので更なる連携に期待ができる。	地域に必要とされる学校を目指し、各種の行事や探究活動を活発化させ、3学期の最終評価につなげる。	A	・地域の特色を活かした探究活動等により、地域連携の強化や生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成につなげることができた。 ・県オリジナルアンケート 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答60%以上⇒1年75%、2年57.2%、3年71.4%	・分校の特色を活かした活動 ・地域の課題解決を考える学習
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付け力の育成	地域の環境問題について学習し、持続可能な地域づくりを目指す。 各教科で地域との連携した活動を学期に1回 「総合的な探究の時間」の課題発見や解決に結びつく発表回数3回以上	・地域と連携した校外活動 ・地域資源を活用した環境保全活動を通じた、SDGs等をテーマとする課題探究学習 ・情報活用能力(プレゼン能力)育成のための全校発表会実施	B	県指定の事業(環境教育の充実)や探究活動で取り組んでいる四万十川の環境調査等、地域と連携し、課題解決に向けた取組が進んでいる。	各自に探究活動等を通して地域の課題の解決方法について考えさせ、3学期の発表会について手助けする。	B	県の指定事業(環境教育の充実)や探究活動での四万十川の環境調査等により、地域と連携し、課題解決に向けた取組が進み、地域の魅力や資源について再認識できた。また、校内や県でのまとめの発表により、プレゼン能力や人前で発言する力を養うことができた。	新しいことに取り組む活動

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】		
チーム学校	学校の振興	★ 学校の魅力化 四万十市の行政や学校運営協議会、分校存続推進部会、同窓会、地域等の連携を強化し、生徒募集に努め、生徒の成長を地域とともに見守り、学校の振興と地域の活性化を図る。	・月1回の定期的な分校存続推進部会の実施 ・年2回の学校運営協議会の実施 ・地域みらい留学による県外生徒の募集による志願者1名以上 ・カヌー部の成績(全国入賞を目指す) ・ラボールの活動回数 3回以上 ・地域貢献隊の活動回数 3回以上 ・分校農園利用による地域連携の回数と評価 ・就職・進学実績	・分校存続推進部会、学校運営協議会の意見等を反映させた学校運営 ・発掘・発展に力とさ(地域協働学習)の充実 ・小中学校と連携した探究活動 ・地域貢献隊、ラボール、カヌー部の活動の充実 ・分校農園を活用した地域との連携 ・国公立大学等への挑戦 ・地域と一体となって魅力化、特色化を目指す	B	行政や地域の協力で月1回の学校存続部会が継続的にできている(現段階で6回目)。地域みらい留学でのオンラインによる生徒募集では、本校に興味を持ち参加する中学生も増えている。また、オープンスクールには、現段階で県外生が4組計13名の参加があった。	・学校存続部会・学校運営協議会等を定期的に開催し、地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進め、入学生確保に尽力する。 ・希望者の都合に合わせてオープンスクールは随時実施する。 ・今以上の部活動の活性化や地域貢献・ボランティア活動に努める。	A	・毎月1回の分校存続推進部会を実施することができ、入学生を増やす手立てを協議できた。 ・年2回の学校運営協議会の意見等を反映させた学校運営が実施できた。 ・地域資源を活用し、地域と連携した教育活動や探究活動、特色ある部活動を通し、学校の振興を図ることができた。 R6入学生4名(県外1名) ⇒ R7受験者15名(県外6名)	・地域と連携した新しい取り組みを実施し、入学生増につなげる ・地域みらい留学での実施方法の改善
	不祥事防止	★ 教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○現状課題 教職員の意識付け(不注意事案の発生防止、ハラスメントについての理解徹底) 教職員同士の声かけ、気配り、風通しの良い職場環境づくり(相談しやすい雰囲気づくり) ○不祥事チェックリストの実施回数(学期に1回) ○不祥事防止に関わる校内研修の実施回数(3回以上)	・事あるごとに服務規律の徹底と不祥事防止に努める ・職員会、校内研修の実施 ・Fax、メール等の送信先について必ず複数の目で確認する	B	不祥事防止研修について定期的・事あるごとに注意喚起し教職員の意識の向上と防止策の徹底を図ることができている。	不祥事チェックリストの実施や研修を行い、不祥事防止の徹底を図る。	B	・服務規律の徹底と不祥事防止に努めることができた ・毎月1回の校内研修の実施ができた。【不祥事チェックリストの実施6回、授業時間帯の職員室の情報セキュリティ、リスク(危険箇所)チェックポイントの実施1回、おいせつ・セクハラ確認シート等の実施1回】 ・Fax、メール等の送信時のダブルチェックの意識付けができた	・不祥事について、意識の向上を図る研修 ・「信頼される学校づくりのために」の有効な活用方法
	働き方改革	★ 長時間勤務の解消 教職員の心身の健康を守り、豊かで風通しのよい職場環境を構築する。	・学校行事や日々の職務の進め方などの見直し ・勤務時間の実態把握と適切な指導 ・教職員が共に協力し助け合う雰囲気づくり(チーム学校) ・部活動の活動内容や活動時間及び休養日の徹底 ・校務の情報化に努める。 ・グループウェアの利用による業務の効率化。	・夏季休業中の完全休業日の設定 ・行事等のスクラップ ・部活動の休養日の実施とガイドラインに沿った部活動計画 ・教職員同士の声掛け ・分掌業務の見直しと効率化 ・勤務管理システムによる超勤把握と管理職による声掛け	B	全体的には長時間勤務者はいないが、部活動の指導に関して、県・四国・全国大会の前後は川の増水を選び、須崎市での練習や宿泊をともなう引率が多くなってしまい、長時間勤務が発生していた。インターハイが終了したため、勤務縮減が図られると判断する。	部活動ガイドラインの見直しやガイドラインに沿った練習計画の実施。	B	・夏季休業中の完全休業日の実施90%以上 ・仕事と生活の調和を目指す中で、チームとして仕事上の役割分担を明確に行い、教職員ひとり一人がやりがいや充実感を持てるようになってきた。 ・年間を通じて、部活動顧問1名以外は、長時間勤務者の縮減を図ることができた。	・学校行事のスクラップおよびストレスチェックの活用 ・部活動の複数顧問制の継続 ・部活動ガイドラインの定期的な確認